第６章　地元国立大学の地域貢献への期待

木原　京（東北大学大学院）
佐藤直由（東北文化学園大学）

6-1. 地域貢献の現状評価と将来のあり方
6-2. 地元国立大学への期待
6-3. まとめ

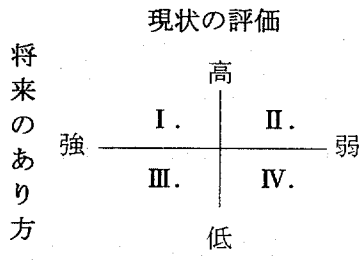
有識者は地元の国立大学と地域との関係の将来のあり方についてどのように考え、どのような期待を抱いているのか。この点を明らかにするのが本章の課題である。

将来のあり方や地元国立大学への期待について、次の３つの側面から把握する。第一は、その大学による地域貢献の将来のあり方、第二は、地域の立場からその大学に何を期待するのか、そして第三は、他大学と比較したときに、その大学が果たすべき役割について何を期待しているのか、である。第一の側面については、現状評価と将来のあり方についての考え方の関連をみることができるように調査票の設計がなされているので、この両者を関連させて分析することにする。

6-1. 地域貢献の現状評価と将来のあり方

地元の国立大学による地域への貢献に対して、当該県の有識者はその現状をどのように評価し、将来どのようにあるべきだと考えているのか。これを明らかにするために、「教育機会の提供」、「文化・教育面での貢献」、「行政・経済・福祉面での貢献」の３つの側面から11の項目について、地元国立大学による地域貢献度の現状評価と将来のあり方について有識者の回答を求めた。

現状の評価については「おおいに貢献している」、「やや貢献している」、「あまり貢献していない」、「全く貢献していない」の４つの選択肢から１つを選択し、将来のあり方については「もっと貢献すべき」、「現状でよい」、「あまり貢献しなくてもよい」の３つの選択肢から１つを選択してもらった。以下では便宜的に、大学による地域貢献の現状評価として、「おおいに貢献している」と「やや貢献している」のどちらかに回答した場合を「高い評価」、「あまり貢献していない」と「全く貢献していない」のどちらかに回答した場合を「低い評価」、の２つに分類して集計した。また、大学による地域貢献への将来のあり方についても便宜的に、「もっと貢献すべき」と答えた場合を今後の地域貢献への「強い要請」、「現状でよい」と「あまり貢献しなくてもよい」の回答を併せて相対的に「弱い要請」、の２つに分類して集計した。



現状評価の高低と将来のあり方への要請の強弱を重ね合わせると次の４つのタイプに分けられる（下左図）。Ⅰ．の「高評価／強要請」は、県内の有識者が地元の国立大学による地域貢献の現

状を高く評価しながらも、さらにより一層の地域貢献を求めているものである。地元国立大学による地域貢献への要請の非常に強い項目への回答パターンといえる。次に、Ⅱ．の「高評価／弱要請」は、大学は現時点ですでに地域に十分に貢献しており、それで良しとみなしているか、あるいは、それほどまで貢献する必要はないとみなしている場合の回答パターンである。基本的には、現状維持を支持する回答だといえる。以上の 2 つは、国立大学と地域の双方の側が、大学が地域に対して当然貢献すべきものとみなしてきたことがらに対して多くみられる有識者の回答パターンと考えられる。

それに対してⅢ．とⅣ．は、従来は国立大学による地域貢献の必要性があまり感じられてこなかったことがら（すくなくとも大学側から）に対する有識者の回答パターンだと考えられる。このうち、Ⅲ．の「低評価／強要請」は、大学による地域貢献度の現状評価が低く、もっと地域貢献すべきだと大学に強く求めている回答であり、地域の側と大学側の間に地域貢献の必要性に関する認識のズレが生じている場合にみられる回答パターンであろう。さいごにⅣ．の「低評価／弱要請」は、現状での評価も将来への要請も弱く、国立大学があえて地域に貢献する必要はないと有識者がみなしている項目だといえる。

以上の枠組みで、以下に示す 3 側面 11 項目のそれぞれについて、有識者調査の回答を分析していくことにしよう。

6-1-1. 地域への教育機会の提供について

表 6-1 は、地域への教育機会の提供と人材供給に対する地元国立大学の貢献度の現状評価と今後の要請度についてみたものである。表右端の「合計」欄に示されている有識者全体の回答傾向をみると、「地域の高校生の進学機会」の提供に関しては、Ⅰ．「高評価／強要請」とⅡ．「高評価／弱要請」の回答に 2 分されており、「地域で活躍する人材の養成」に関してはⅠ．「高評価／強要請」、「職業人の再教育」に関してはⅢ．「低評価／強要請」の回答が多くなっている。

国立大学による「地域の高校生への進学機会」の提供は、発足当初から新制国立大学の果たすべき役割として重視されていただけに、今後の要請については「もっと貢献すべき」と考える層と現状でよしとする層に 2 分されているものの、どちらもこれまでの国立大学の貢献度についてはおおむね高い評価で一致している。これに比べれば、「地域で活躍する人材の養成」に関しては、これまでの貢献をそれなりに評価するものの、より一層の貢献を求める回答が多数意見になっている。この 2 つに対して、「職業人の再教育」に対する貢献の現状については否定的な評価を下す層（Ⅲ．＋Ⅳ．）が 6 割を超える一方で、今後の貢献を求める有識者（Ⅰ．＋Ⅲ．）は 8 割を超えている。地元の国立大学に対して、これまで必しも十分とはいえなかった「職業人の再教育」への積極的な取り組みを求める声が非常に高いことがわかる。

3 項目とも有識者の回答に県による差はそれほど大きくない。しかし、「地域の高校生の進学機会」の提供と「地域で活躍する人材の養成」に関しては、Ⅲ．「低評価／強要請」の回答が他県に比べて宮城県と広島県の有識者にやや多く、この 2 項目に関して、それぞれ東北大学と広島大学の地域貢献度を向上させることへの要望が強い。

有識者の所属する領域別にみても回答にあまり差はないが、文化・芸術分野の有識者は「地域で活躍する人材の養成」に関して、また、報道・出版分野の有識者は「職業人の再教育」に関して、現状

表6-1 地域への教育機会の提供についての貢献の現状評価と今後のあり方

	<県別>							<領域別>									
	宮城	山形	新潟	広島	香川	福岡	佐賀	政治	行政	産業・経済	教育	医療・保健	社会・福祉	市民団体	報道・出版	文化・芸術	合計
地域の高校生の進学機会として																	
Ⅰ(評価高・要請強)	40.2	53.6	49.8	44.2	48.1	40.2	54.7	52.8	42.8	44.0	49.6	35.1	47.9	52.1	56.0	47.4	46.3
Ⅱ(評価高・要請弱)	35.1	36.0	38.2	29.4	41.0	47.6	35.2	28.3	43.7	43.0	32.4	49.8	36.8	30.9	39.0	26.3	38.0
Ⅲ(評価低・要請強)	19.8	8.8	8.9	23.2	9.5	9.1	8.7	16.2	10.3	10.7	15.6	10.9	12.9	16.0	4.0	17.9	12.8
Ⅳ(評価低・要請弱)	4.9	1.7	3.1	3.3	1.3	3.2	1.4	2.7	3.2	2.3	2.4	4.2	2.5	1.1	1.0	8.4	2.9
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
度数	550	422	617	582	451	717	369	407	993	516	1055	285	163	94	100	95	3708
地域で活躍する人材の養成に																	
Ⅰ(評価高・要請強)	53.4	69.6	62.5	59.5	57.4	58.2	64.3	63.3	61.8	57.5	60.5	58.0	56.9	58.9	64.6	52.0	60.2
Ⅱ(評価高・要請弱)	21.3	20.3	22.1	19.1	26.4	24.7	17.3	13.7	22.6	23.0	22.5	29.7	23.4	16.8	20.2	17.3	21.9
Ⅲ(評価低・要請強)	23.1	9.6	14.2	20.2	14.9	16.1	17.8	21.3	14.2	18.6	16.1	11.5	18.0	23.2	15.2	29.6	16.7
Ⅳ(評価低・要請弱)	2.2	0.5	1.1	1.2	1.3	1.0	0.5	1.7	1.4	1.0	0.9	0.7	1.8	1.1	0.0	1.0	1.2
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
度数	554	428	619	580	455	728	370	409	999	522	1059	286	167	95	99	98	3734
職業人の再教育に																	
Ⅰ(評価高・要請強)	31.3	29.1	29.4	33.7	30.0	30.4	34.6	32.1	31.1	26.6	33.3	26.1	36.9	39.8	23.2	32.6	31.1
Ⅱ(評価高・要請弱)	8.8	7.6	8.6	8.0	10.4	7.5	6.5	6.9	7.8	8.9	8.9	10.6	8.8	4.3	4.0	6.3	8.2
Ⅲ(評価低・要請強)	53.8	57.6	54.3	52.7	51.6	56.0	53.1	55.2	55.3	55.0	52.4	54.8	46.9	49.5	70.7	52.6	54.2
Ⅳ(評価低・要請弱)	6.0	5.7	7.7	5.7	8.1	6.2	5.7	5.9	5.8	9.5	5.3	8.5	7.5	6.5	2.0	8.4	6.5
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
度数	546	422	608	566	444	711	367	393	978	516	1047	283	160	93	99	95	3664

の貢献度評価が相対的に低く、今後の地域貢献を強く求めている傾向がうかがえる。

6-1-2. 文化・教育面での地域への貢献について

文化・教育面での地域貢献についての4項目への有識者の回答は表6-2に示してある。いずれの項目も回答傾向は似通っており、地域貢献の現状に対して肯定的評価をする人（Ⅰ.＋Ⅱ.）と否定的評価をする人（Ⅲ.＋Ⅳ.）に2分されているものの、将来への要請に関しては、どの項目も「もっと貢献すべき」とする回答（Ⅰ.＋Ⅲ.）がほぼ8割になっており、意見は一致しているといえよう。

県別の評価で色濃く差異が出ているのが「地域における国際交流」に対する評価である。国際交流面での貢献を各大学に求めている有識者の割合（Ⅰ.＋Ⅲ.）は、どの県もほぼ8割程度で差はないが、現状での貢献度評価には大きな差がある。山形県と香川県では、それぞれ山形大学と香川大学の現状での貢献度を高いとみなす有識者（Ⅰ.＋Ⅱ.）は4割程度にすぎず、しかも、貢献度の低い現状のままでもかまわないと考える人（Ⅲ.）が1割以上もいることは注目に値する。これに比べ、宮城県と佐賀県では現状での貢献度を高く評価する人（Ⅰ.＋Ⅱ.）が7割近くおり、他県に比べて有意に高い割合を示している。国際交流の面では、東北大学と佐賀大学が県内で中心的な役割を担っていることの反映とみなすことができよう。

有識者の所属領域別にみると、「地域住民の教養の向上」への大学の貢献度評価が低いのは、市民団体・ボランティア、報道・出版、芸術・文化の分野の有識者である。特に、報道・出版分野の有識者は、Ⅳ.「現状評価も今後の貢献への要請も弱い」が多く、この方面での大学の貢献について無関心だともいえる。「地域の文化の振興」に関しては、報道・出版と文化・芸術分野の人々の現状評価は低いが、今後の要請は相対的に強く（Ⅲ.）、自分の所属する活動領域に直接的な関わりがあることがらへの要求水準が高めになるのかもしれない。

表6-2 文化・教育面での地域貢献に対する現状評価と今後のあり方

	<県別>							<領域別>									
	宮城	山形	新潟	広島	香川	福岡	佐賀	政治	行政	産業・経済	教育	医療・保健	社会・福祉	市民団体	報道・出版	文化・芸術	合計
地域住民の教養の向上に																	
Ⅰ(評価高・期待高)	45.4	44.4	47.3	44.1	50.1	43.3	49.7	49.1	45.1	44.1	46.6	46.9	48.4	50.6	45.4	35.8	**46.0**
Ⅱ(評価高・要請弱)	17.4	13.4	14.4	14.8	14.6	12.4	12.6	11.4	13.3	14.9	15.0	17.9	16.8	8.0	7.2	22.1	**14.3**
Ⅲ(評価低・期待高)	32.1	38.6	35.0	37.7	30.5	38.2	34.6	35.9	36.1	35.9	35.0	31.1	32.9	39.1	39.2	38.9	**35.5**
Ⅳ(評価低・要請弱)	5.0	3.6	3.3	3.4	4.8	6.1	3.1	3.6	5.5	5.1	3.4	4.0	1.9	2.3	8.2	3.2	**4.3**
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	**100.0**
度数	535	417	605	562	439	691	358	387	964	510	1033	273	161	87	97	95	**3607**
地域の文化の振興に																	
Ⅰ(評価高・要請強)	46.1	48.1	49.7	43.8	45.0	45.0	50.0	46.7	46.3	45.2	47.8	48.4	49.7	52.3	38.1	38.1	**46.6**
Ⅱ(評価高・要請弱)	15.5	13.2	12.9	12.1	15.2	11.9	10.5	12.5	11.3	12.6	14.8	16.5	14.7	8.1	8.2	12.4	**13.0**
Ⅲ(評価低・要請強)	34.3	35.6	34.1	39.6	34.8	37.6	35.4	37.2	37.0	37.3	33.6	31.1	33.1	37.2	48.5	47.4	**36.1**
Ⅳ(評価低・要請弱)	4.1	3.1	3.3	4.5	5.0	5.5	4.1	3.6	5.4	4.9	3.9	4.0	2.5	2.3	5.2	2.1	**4.3**
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	**100.0**
度数	536	418	604	560	440	691	362	392	962	507	1034	273	163	86	97	97	**3611**
地域の教育機関の活性化に																	
Ⅰ(評価高・要請強)	46.4	50.1	46.5	46.4	48.6	41.6	51.0	46.7	47.4	42.3	47.9	50.2	49.1	50.0	40.2	38.3	**46.7**
Ⅱ(評価高・要請弱)	13.9	13.3	13.7	12.7	17.4	12.7	13.6	10.9	12.5	16.7	13.9	16.5	16.6	10.2	10.3	16.0	**13.8**
Ⅲ(評価低・要請強)	35.9	33.0	35.6	38.1	29.9	40.8	32.7	38.3	35.6	36.4	35.4	29.7	30.7	38.6	44.3	41.5	**35.7**
Ⅳ(評価低・要請弱)	3.8	3.6	4.1	2.8	4.1	4.9	2.8	4.1	4.5	4.5	2.9	3.7	3.7	1.1	5.2	4.3	**3.8**
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	**100.0**
度数	532	415	606	565	442	692	361	394	958	508	1038	273	163	88	97	94	**3613**
地域における国際交流に																	
Ⅰ(評価高・要請強)	48.8	30.2	41.5	49.4	29.5	45.4	49.6	41.5	45.1	42.2	38.7	46.2	48.8	50.6	47.9	34.0	**42.6**
Ⅱ(評価高・要請弱)	19.1	9.5	11.1	10.9	11.8	12.9	17.5	10.7	13.1	10.6	14.5	16.1	15.0	10.3	11.5	14.9	**13.1**
Ⅲ(評価低・要請強)	27.4	49.0	38.9	34.7	46.2	37.0	27.6	40.7	34.8	35.9	40.4	33.0	29.4	34.5	36.5	43.6	**37.1**
Ⅳ(評価低・要請弱)	4.7	11.2	8.5	5.0	12.5	4.6	5.4	7.0	7.0	11.4	6.3	4.8	6.9	4.6	4.2	7.4	**7.1**
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	**100.0**
度数	529	410	602	559	431	689	355	383	954	502	1026	273	160	87	96	94	**3575**

6-1-3. 行政・経済・福祉面での地域への貢献について

行政・経済・福祉の側面に関わる4項目に対する有識者の回答は**表6-3**に示すとおりである。有識者全体の回答傾向を「合計」欄でみると、地域の「企業・産業界」と「保健・医療・福祉」領域への貢献の現状評価と要請は非常に強く、これまで同様、今後も国立大学の当然なすべきことがらとみなされている。また、地域の「市民団体やボランティア」の活動への貢献は、現状では非常に少ないものの、今後大いに求められていることがらであり（**Ⅲ.** = 51.3%)、大学が新たに貢献すべき領域として有識者の熱いまなざしが寄せられていることがわかる。

県別にみると、「保健・医療・福祉」の領域に関しては、広島大学の貢献度をやや低く評価する人の割合が高く（**Ⅲ.**＋**Ⅳ.** = 28.0%)、その分だけ、今後の地域への貢献を強く求める人が多くなっている（**Ⅲ.** = 23.4%)。広島大学への医学部の設置が、山形大学を別にして、東北大学、新潟大学、九州大学に比べれば後発に属し、先発の岡山大学医学部の県内医療界への影響力の強さと関係があるのかもしれない。

しかし、これ以上に「保健・医療・福祉」面での各県別の有識者の回答傾向で注目しておくべきは、医学部をもたない香川大学、佐賀大学に対する要請の強さであろう。現状の貢献度を高く評価する人（**Ⅰ.**＋**Ⅱ.**）は他県の70～80%に比べて、35%程度と少ないが、今後、より多くの貢献を求めている人の割合（**Ⅰ.**＋**Ⅲ.**）は7割を超えており、とりわけ、これまでは十分な貢献をおこなってこなかったが、今後の一層の貢献を求めている人（**Ⅲ.**）が半数近くもいるのである。同じ県内に国立の香川医科大学、佐賀医科大学があるにもかかわらず、香川大学、佐賀大学に対して県内の有識者が高い期待を寄せて

表6-3 地域の行政・経済・福祉への貢献に対する現状評価と今後のあり方

	＜県別＞							＜領域別＞									
	宮城	山形	新潟	広島	香川	福岡	佐賀	政治	行政	産業・経済	教育	医療・保健	社会・福祉	市民団体	報道・出版	文化・芸術	合計
地域の政界・行政に																	
Ⅰ(評価高・要請強)	41.3	45.9	36.7	41.0	39.6	44.8	39.9	44.1	50.3	34.9	35.9	40.0	42.2	39.8	36.1	38.5	**41.3**
Ⅱ(評価高・要請弱)	24.5	20.2	21.5	16.5	24.7	27.2	21.1	17.0	24.0	25.3	23.2	18.1	24.2	19.3	16.5	24.0	**22.4**
Ⅲ(評価低・要請強)	20.7	23.9	28.6	30.7	23.7	19.9	26.0	30.6	18.7	23.3	28.4	25.9	22.4	31.8	27.8	20.8	**24.7**
Ⅳ(評価低・要請弱)	13.5	10.0	13.2	11.9	12.0	8.1	13.0	8.4	7.0	16.5	12.6	15.9	11.2	9.1	19.6	16.7	**11.5**
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	**100.0**
度数	535	410	605	564	434	677	361	395	962	498	1019	270	161	88	97	96	**3586**
地域の企業・産業界に																	
Ⅰ(評価高・要請強)	62.1	62.8	50.3	56.8	51.7	59.8	61.1	55.0	63.0	60.2	54.0	57.4	57.8	48.9	56.7	46.3	**57.6**
Ⅱ(評価高・要請弱)	18.9	13.4	16.2	14.0	17.8	19.4	12.9	13.0	14.3	15.9	18.7	17.4	21.1	20.5	12.4	20.0	**16.4**
Ⅲ(評価低・要請強)	17.0	21.0	29.1	25.4	26.3	18.4	23.5	29.0	20.0	21.7	23.8	21.1	18.0	29.5	27.8	24.2	**22.9**
Ⅳ(評価低・要請弱)	2.1	2.7	4.3	3.8	4.2	2.5	2.5	3.1	2.7	2.2	3.4	4.2	3.1	1.1	3.1	9.5	**3.2**
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	**100.0**
度数	535	409	604	558	433	681	357	393	960	503	1015	265	161	88	97	95	**3577**
地域の保健・医療・福祉に																	
Ⅰ(評価高・要請強)	62.4	59.2	58.8	56.9	25.5	63.4	29.3	56.1	54.2	48.5	51.4	61.7	54.0	48.3	50.5	51.1	**53.0**
Ⅱ(評価高・要請弱)	20.2	21.1	25.4	15.2	10.3	22.7	6.5	13.0	17.8	21.0	19.8	21.9	16.0	20.2	7.4	19.1	**18.3**
Ⅲ(評価低・要請強)	15.4	17.9	13.9	23.4	46.0	12.0	48.0	26.8	21.8	22.8	22.7	13.4	27.0	30.3	34.7	21.3	**22.9**
Ⅳ(評価低・要請弱)	2.1	1.7	2.0	4.6	18.2	1.9	16.2	4.1	6.2	7.6	6.1	3.0	3.1	1.1	7.4	8.5	**5.7**
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	**100.0**
度数	534	407	611	561	428	683	352	392	959	499	1016	269	163	89	95	94	**3576**
市民団体・ボランティアに																	
Ⅰ(評価高・要請強)	24.2	26.8	24.2	27.5	23.6	25.8	26.1	26.2	27.3	24.0	23.0	23.0	31.3	33.3	19.1	33.0	**25.4**
Ⅱ(評価高・要請弱)	7.7	8.5	10.9	9.2	9.8	10.4	10.1	8.1	9.0	11.5	10.2	9.8	6.9	11.5	9.6	7.4	**9.6**
Ⅲ(評価低・要請強)	51.1	50.3	52.2	53.1	53.7	47.6	52.5	54.2	49.3	46.2	54.4	46.8	52.5	52.9	62.8	50.0	**51.3**
Ⅳ(評価低・要請弱)	17.1	14.5	12.6	10.3	12.9	16.1	11.2	11.5	14.4	18.3	12.4	20.4	9.4	2.3	8.5	9.6	**13.7**
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	**100.0**
度数	521	400	594	556	428	670	356	382	944	487	1012	265	160	87	94	94	**3525**

いるという事実は、「保健・医療・福祉」面で大学に期待されている地域貢献の内容が、医学部のみ、あるいは、医学という専門分野のみで対応すべきことがらではなくなってきていることを示している。複数の学部から構成される県内の国立大学の「総合性」に期待する新たな地域ニーズが生まれてきている一つの例なのかもしれない。

有識者の回答傾向を所属領域別にみると、自分の所属している領域に直接の関わりがあることがらに関しては、大学の貢献度を高く評価し（Ⅰ.＋Ⅱ.）、さらにそれ以上の貢献を求める傾向がみられる（Ⅰ.）。たとえば、「地域の政界・行政」に関しては行政分野の人が、「地域の企業・産業界」に関しては行政と産業・経済分野の人が、「地域の保健・医療・福祉」に関しては医療・保健分野の人が、そして、「市民団体・ボランティア」の活動に関しては市民団体やボランティア関係の有識者が、大学の地域貢献度を相対的に高く評価し、さらなる貢献を求めている。

それに対して、自分の所属している領域と直接の関わりが少ないことがらに関しては、大学による地域貢献の現状を相対的に低く評価し、今後の貢献を強く求める（Ⅲ.）回答や、あるいは逆に、現状での地域貢献をそれなりに評価し、それ以上の貢献をとくに大学に求めない（Ⅱ.）回答が多くなっている。前者の例としては、「地域の保健・医療・福祉」と「市民団体・ボランティア」に対する報道・出版関係の有識者の回答が挙げられる。また、後者の例としては、「地域の企業・産業界」に対する市民団体・ボランティア関係や文化・芸術分野の有識者の回答がこれに該当し、現状における大学の貢献度を高く評価する回答（Ⅰ.＋Ⅱ.）のうち、それ以上の貢献を求めない回答（Ⅱ.）の占める比率が他の領域の有識者に比べて高くなっている。この回答結果は、大学は「地域の企業・産業界」に対して

すでに十分貢献しているのだから、それ以上の貢献をする必要はないという考え方に立脚していると解釈することも可能であろう。

6-2. 地元国立大学への期待内容と役割期待

6-2-1. 地元の国立大学への期待内容

次に、前節とはやや異なる角度から、有識者が地元の当該国立大学に対して何をどの程度期待しているのか、それを把握するために、6つの具体的な項目についてその期待度を尋ねた。表6-4は、4つの選択肢に対して、「おおいに期待している」には3点、「やや期待している」に1点、「あまり期待しない」に−1点、「全く期待しない」に−3点を与え、各項目ごとに算出した平均値を示している[1]。

有識者全体でみれば、「大学の情報を広く開示する」(平均 2.16)、「大学の施設を地域住民に広く開放する」(1.72)、「学生を企業や自治体などで実習させる制度を設ける」(1.40)ことへの期待度が高く、それに対して、「地域住民子弟の入学のための優先枠を設ける」(0.18)、「県・市の資金を大学が受け入れるような制度を設ける」(0.34)、「地域代表が大学の運営に参加できるような制度を設ける」(0.44)ことに対しては、期待する意見と期待しない意見にほぼ2分されている。

これを有識者の県別・所属領域別にみると、「大学の情報を広く開示する」ことへの有識者の期待は、県や所属領域に関わりなく強いが、とりわけ報道・出版関係の有識者からの期待が強いのは仕事の性格からみれば当然だといえよう。「大学の施設を地域住民に広く開放する」に対する有識者の回答もほぼ同じ傾向を示している。また、「学生を企業や自治体などで実習させる制度を設ける」ことへの有識者の期待は、宮城県と香川県でやや弱く、所属領域別にみると、市民団体と政治の関係者のあいだで

表6-4 地元の当該国立大学に期待すること

	地域住民子弟の入学のための優先枠を設ける	学生を企業や自治体などで実習させる制度を設ける	県・市の資金を大学が受け入れるような制度を設ける	大学の施設を地域住民に広く開放する	大学の情報を広く開示する	地域代表が大学の運営に参加できるような制度を設ける
宮城	-0.24	1.10	0.18	1.72	2.16	0.16
山形	0.54	1.44	0.42	1.74	2.12	0.64
新潟	0.54	1.52	0.42	1.68	2.18	0.46
広島	0.58	1.52	0.34	1.74	2.22	0.50
香川	0.14	1.22	0.26	1.70	1.96	0.44
福岡	-0.48	1.42	0.32	1.72	2.20	0.36
佐賀	0.44	1.50	0.54	1.80	2.24	0.62
政治	0.78	1.62	0.52	1.88	2.22	0.64
行政	-0.20	1.32	0.06	1.64	2.18	0.32
産業・経済	0.04	1.26	0.52	1.66	2.16	0.38
教育	0.50	1.42	0.28	1.76	2.14	0.42
医療・保健	-0.40	1.24	0.72	1.48	1.98	0.36
社会・福祉	0.22	1.40	0.32	1.94	2.24	0.68
市民団体	0.48	1.78	0.78	1.80	2.16	0.72
報道・出版	-0.60	1.48	0.54	2.00	2.44	0.74
文化・芸術	0.62	1.42	0.52	1.90	2.04	0.58
全体	**0.18**	**1.40**	**0.34**	**1.72**	**2.16**	**0.44**

注:「おおいに期待している」=3点、「やや期待している」=1点、「あまり期待しない」=−1点、「全く期待しない」=−3点の平均。

強く、受け入れの当事者である医療・保健、産業・経済、行政の関係者のあいだで相対的に弱い。

次に、期待する／しないの意見が拮抗している3項目についてみてみよう。「地域住民子弟の入学のための優先枠を設ける」ことに対しては、有識者の所属する県や領域によって回答の傾向にかなりの違いがある。たとえば、福岡県と宮城県の有識者のあいだでは、九州大学や東北大学がこのような枠を設けることを期待しない回答が多いのに対して、他の5県では期待する回答のほうが多くなっている。また、領域別にみると、報道・出版、医療・保健、行政の関係者は否定的であり、政治、文化・芸術、教育の関係者では肯定的な意見が強くなっている。

「県・市の資金を大学が受け入れるような制度を設ける」ことについては、宮城県の有識者、行政の関係者に消極的な意見が多く、佐賀県の有識者、市民団体、医療・保健の関係者に積極的な意見が多い。さいごに、「地域代表が大学の運営に参加できるような制度を設ける」ことに対しては、宮城県の有識者、行政の関係者に消極的な意見が多く、山形県、佐賀県の有識者、報道・出版、市民団体の関係者に積極的な意見が多くなっている。

6-2-2. 地元の国立大学への役割期待

さいごに、他大学と比較して、地元の当該国立大学にはどのような役割が期待されているのかについてみていくことにしよう。有識者調査では、「県・市行政の審議会等の委員」、「行政や企業との共同研究・開発」、「地元企業への技術・情報サービス」、「施設・設備・情報の市民への開放」、「市民対象の公開講座等の開催」、「職業人のための短期研修」の6つの項目について、その役割をどの大学に期待しているのか尋ねる質問項目を設けてある。たとえば宮城県用の調査票では、期待する大学として「主に東北大学」、「主に県内の他の大学」、「主に県外の大学」、「どちらともいえない」の4つの選択肢を挙げ、その中から1つを選ぶ形式になっている。

有識者全体でみると、当該の国立大学への期待度は、いずれの項目でも有識者の半数近くから6割近くまでが当該の国立大学に期待していると答えており、県内・県外の他大学のそれと比べて非常に高いことがわかる。

県別にみると（表 6-5）、当該大学に対する期待は、佐賀県ではすべての項目にわたって佐賀大学への期待が高くなっており、県内に佐賀大学に匹敵する規模と陣容を備えた大学が存在しない状況を考慮すれば、佐賀県の有識者が佐賀大学に注ぐまなざしが熱くなる理由も理解できる。それに対して、宮城県、新潟県、福岡県では東北大学、新潟大学、九州大学への役割期待度は相対的に低く、県内他大学への期待度が、その分だけ高くなっている。以上から、当該国立大学が県内で果たすべき役割として有識者が何を期待しているかは、県内に、それぞれの項目に応じて一定の役割を果たすことのできる大学や教育研究機関が他に存在するか否か、という条件に大きく左右されているのであって、当該大学に対する評価の高低をそのまま反映しているわけではないことがわかる。

この解釈は、県外大学への期待の高さと重ね合わせてみると、その妥当性がより一層鮮明になる。県外大学への期待は、相対的に山形県、香川県、佐賀県の有識者で高くなっているが、大学の総合性という点からみれば、山形大学、香川大学、佐賀大学は、他の4大学に比べて学部編成の面からもやや弱体だといえよう。これらの大学では対応できないことがらを受け皿として引き受けることのできる他大学が県内に存在しない場合には、いきおいその要請は県外の大学に求められることになるであ

表6-5 大学への役割期待(県別)

	宮城	山形	新潟	広島	香川	福岡	佐賀	全体
当該大学に期待する回答者の比率(%)								
県・市行政の審議会等の委員	35.1	53.3	45.2	48.6	56.8	37.9	62.4	46.9
行政や企業との共同研究・開発	60.8	58.3	46.1	57.7	54.9	50.6	67.2	55.6
地元企業への技術・情報サービス	56.7	58.1	48.4	55.3	54.5	47.5	68.2	54.4
施設・設備・情報の市民への開放	45.5	66.2	51.0	54.2	66.3	40.7	73.7	54.6
市民対象の公開講座等の開催	48.6	76.2	58.5	58.3	69.1	45.2	75.9	59.5
職業人のための短期研修	39.5	64.6	42.6	51.7	60.1	38.2	68.2	50.0
県内他大学に期待する回答者の比率(%)								
県・市行政の審議会等の委員	11.9	3.3	7.6	8.6	4.1	15.6	3.4	8.6
行政や企業との共同研究・開発	6.0	5.0	11.5	9.4	4.1	13.9	3.4	8.4
地元企業への技術・情報サービス	7.7	5.0	14.1	11.2	6.8	16.7	4.6	10.3
施設・設備・情報の市民への開放	16.5	6.1	13.8	15.7	5.8	21.6	5.3	13.3
市民対象の公開講座等の開催	17.4	4.1	12.2	14.0	5.1	19.6	5.8	12.3
職業人のための短期研修	20.1	6.3	19.3	15.3	6.8	23.7	5.8	15.3
県外大学に期待する回答者の比率(%)								
県・市行政の審議会等の委員	1.2	3.9	1.6	1.1	1.2	0.9	2.7	1.7
行政や企業との共同研究・開発	0.3	4.8	2.5	1.1	4.9	0.8	4.1	2.4
地元企業への技術・情報サービス	0.9	5.9	2.4	1.1	5.3	0.8	5.3	2.7
施設・設備・情報の市民への開放	0.7	0.9	0.3	0.2	0.4	0.0	1.4	0.5
市民対象の公開講座等の開催	0.3	0.9	0.6	0.5	1.0	0.3	1.2	0.6
職業人のための短期研修	0.3	2.6	1.0	0.5	2.7	0.4	2.7	1.3
N	587	458	672	636	486	786	415	4040

ろう。有識者の回答結果はこのように理解することができる。ちなみに、とり立てて言及すべき有識者の所属領域による期待度の違いはない。

6-3. まとめ

①地元の国立大学は、地域の高校生への進学機会の提供に関しては、これまで十分に地域に貢献してきた。人材養成と地域への人材供給面での地元国立大学の貢献に対しても県内有識者の評価は高いが、今後、これまでにも増して地域に貢献することが強く求められている。また、職業人の再教育に関しては、地元国立大学の地域貢献度についての現状評価は低く、今後大いに貢献すべきことが強く求められている。

②国際交流の面での地元国立大学の地域貢献に関しては、どの県の有識者も今後に期待するところが大きい。その中で、宮城県と佐賀県の有識者は、地元の国立大学は現時点ですでに地域の国際交流に大いに貢献していると評価している。それに対して、山形県と香川県の有識者の 6 割は現状での地元国立大学の地域貢献度を低く評価しており、しかも、それでかまわないと考えている有識者が全体の 1 割を占めている。この 2 県では、地元国立大学のなすべき地域貢献には、国際交流に優先すべきことがらがあると考えられているのかもしれない。

③香川大学や佐賀大学には医学部がないにもかかわらず、地域の医療・保健・福祉面でこの 2 大学への今後の地域貢献を要望する声は強い。このように、地域からの要請には、これまでのような特定の学部・特定の専門分野だけでは対応できないような新たな内容のものも含まれてきている。そうした

新たな地域からの要請に大学が対応できるとすれば、それは、多様な専門分野を包摂する大学の「総合性」であり、地元の国立大学は、この点で重要な役割を果たす潜在的な可能性を秘めているといえるかもしれない。

④国立大学が地域住民の子弟のために特別の入学枠を設けることに対してネガティブな意見をもつ人が多い県もあるように、国立大学に寄せられている県内からの期待や要望は、必ずしも県民の利害に直結するものとは限らず、大学および県の特性に応じて多様かつ個性的である。

⑤佐賀県では佐賀大学への有識者の期待は多方面に亘って高く、かつ包括的である。それに比べると、宮城県や新潟県、福岡県の有識者が、東北大学、新潟大学、九州大学に対して抱いている県内での役割期待はかなり限定的である。このような違いは、それぞれの大学および県の特性や個性によるところもあるだろうが、県内の他大学との役割分担が可能であるかどうかという条件の違いにも起因すると思われる。